

ハイリスク新生児医療調査票（2022年出生児）

調査への協力を同意します。

同意します。 →次ページからご回答ください。

同意しません。 →調査は終了となります。ご協力ありがとうございました。

貴施設名

都道府県名

アンケート記入者名

メールアドレス

医療機関コード（数字10桁）

（<https://www.iryokikan.info/>からご確認いただけます）

回答用紙はAからDまで4つあります。質問に対する回答を黒枠のセルにご記入ください

調査票A：施設状況の調査

2022年（令和4年）1月1日現在の貴施設の状況についてお答えください。

回答	
<p>[1] ハイリスク新生児医療（早産児および病児の診療）を行っていますか？ 貴院の状況に最も当てはまるものを選んでください。</p> <p>a. 総合周産期母子医療センター b. 地域母子医療センター c. ハイリスク新生児医療を行っているがa, bのいずれでもない d. ハイリスク新生児医療は行っていない →アンケートは終了となります。ご協力いただきありがとうございました。</p>	
<p>[2] 貴院で診療しているハイリスク新生児についてご回答ください。</p> <p>a. 院内出生児のみ b. 院外出生児のみ c. 院内出生児・院外出生児ともに診療している</p>	
<p>[3] 貴施設のハイリスク新生児を収容するユニット</p> <p>(3-1) 新生児特定集中治療室(NICU)管理料について</p> <p>a. 申請済み：新生児特定集中治療室管理料1（もしくは総合周産期特定集中治療管理料） b. 申請済み：新生児特定集中治療室管理料2 c. 申請予定 d. 申請予定なし</p>	
<p>（3-1）で「申請済み」の場合：病床数をお答えください。 新生児特定集中治療室管理料1（もしくは総合周産期特定集中治療室管理料） 新生児特定集中治療室管理料2</p>	<p>床 床</p>
<p>(3-2) 新生児治療回復室(GCU)管理料について</p> <p>a. 申請済み b. 申請予定 c. 申請予定なし</p> <p>「a. 申請済み」の場合：病床数をお答えください。</p>	<p>床</p>
<p>[4] 設問[3]で認可病床のない施設のみお答えください。（認可病床のある施設は設問[5]へ進んでください） ハイリスク新生児を収容するユニットについて</p>	
<p>(4-1) ハイリスク新生児を収容する病床として当てはまるものを選んでください。</p> <p>a. 健常児、ローリスク新生児と同じユニット（新生児室など） b. 一般小児科病棟 c. 上記a, bとは別の独立したユニット</p> <p>[c]を選択した場合：病床数をお答えください。 [c]を選択した場合：産科部門や小児科病棟とは別の看護単位になっていますか？ [a. はい、b. いいえ]</p>	<p>床</p>
<p>(4-2) 人工呼吸管理は可能ですか？当てはまるものを1つお答えください。</p> <p>a. 挿管下、非挿管下いずれも可能 b. 非挿管下のみ可能（nasal CPAPやhigh flow nasal cannulaなど） c. できない</p>	

[5] 医師の勤務体制はどのようになっていますか？

常勤医師：週30時間以上勤務する医師（専攻医含む）。研修医は含まない。

非常勤医師：週30時間未満勤務する医師（専攻医含む）。研修医は含まない。

(5-1) 貴施設の小児科（一般小児科担当と新生児担当の合計）の医師数

常勤医師		名
非常勤医師		名

(5-2) そのうち、新生児医療に専従の医師数

常勤医師		名
非常勤医師		名

(5-3) 新生児医療に専従の常勤医師のうち以下の専門医数をお答えください。

小児科専門医		名
日本周産期新生児医学会新生児専門医		名

(5-4) ハイリスク新生児に対する夜間の診療体制

- a. 新生児専従の当直医（もしくは夜勤・日勤）がいる
- b. 小児科病棟や救急外来との兼務
- c. オンコールが対応する
- d. 当直医・オンコールともにいない

(5-5) 設問[5-4]でaもしくはbの場合：宿日直許可の有無（2022年1月1日時点）をお答えください。

- a. 宿日直許可ありの当直
- b. 宿日直許可なしの当直
- c. 宿日直許可なし（夜勤）

[6] ハイリスク新生児医療にかかわるメディカルスタッフの体制

(6-1) 新生児集中ケア認定看護師がいる [a. いる、b. いない]

(6-2) 国際認定ラクテーション・コンサルタントがいる（職種は問わない）

[a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-3) 臨床心理士がいる [a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-4) 保育士がいる [a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-5) 長期入院児に対応するNICU入院児支援コーディネーターがいる

[a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-6) 理学療法士がいる [a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-7) 臨床工学士がいる [a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-8) 病棟薬剤師がいる [a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

(6-9) メディカルクラークがいる [a. いる（専従）、b. いる（兼任）、c. いない]

[7] 超早産児に対する診療方針

(7-1) 在胎22週の超早産児の診療方針として最も当てはまるのはどれですか？

- a. 全例で積極的治療を行う
- b. 両親が希望すれば積極的治療を行う
- c. 積極的治療は行わない
- d. 在胎22週の早産児は診療していない

(7-2) 在胎23週の超早産児の診療方針として最も当てはまるのはどれですか？

- a. 全例で積極的治療を行う
- b. 両親が希望すれば積極的治療を行う
- c. 積極的治療は行わない
- d. 在胎23週の早産児は診療していない

調査票B 超早産児・超低出生体重児に対する栄養管理

貴院における超早産児・超低出生体重児に対する一般的な栄養管理についてお答えください。

[1] 中心静脈栄養について

(1-1) 中心静脈栄養の投与を行っていますか？ [a. はい、b. いいえ]

--

(1-2) 平均的なアミノ酸の投与開始日齢（日齢）

日齢	
----	--

(1-3) 平均的なアミノ酸の投与開始量（g/kg/日）

	g/kg/日
--	--------

(1-4) 平均的な脂肪乳剤の開始日齢（日齢）

日齢	
----	--

(1-5) 平均的な脂肪乳剤の投与開始量(g/kg/日)

	g/kg/日
--	--------

(1-6) 中心静脈栄養終了の目安となる経腸栄養量(mL/kg/日)

	mL/kg/日
--	---------

[2] 経腸栄養について

(2-1) 初回経腸栄養の開始時期（生後●時間後）

	時間後
--	-----

(2-2) 自母乳が届くまでの経腸栄養は何を使用していますか

- a. 自母乳が届くまではNPO
- b. ドナーミルク（母乳バンク）
- c. もらい母乳
- c. 加水分解乳、成分栄養剤
- d. 低出生体重児用ミルク
- e. 普通ミルク
- f. 糖水

--

(2-3) 母乳強化剤を使用していますか

- a. HMS-1、HMS-2を使い分けている
- b. HMS-1のみ使用している
- c. HMS-2のみ使用している
- d. 使用していない

--

(2-4) 母乳強化剤を開始する経腸栄養量をお答えください。

- a. ~20mL/kg/日未満
- b. 20~50mL/kg/日未満
- c. 50~100mL/kg/日未満
- d. 100mL/kg/日 以上

--

(2-5) 母乳強化剤を開始する歳の添加量をお答えください。

- a. 母乳 120mLに1包（1/4強化）
- b. 母乳 60mLに1包（1/2強化）
- c. 母乳 30mLに1包（完全強化）

--

調査票C 2022年の年間入院数・死亡数

2022年1月1日から12月31日までに、出生後24時間以内にNICUまたはハイリスク新生児を収容するユニットに入院した全新生児の症例数とそのうちNICU入院中に死亡した症例数を入力してください。

「分娩室死亡」は出生後に**分娩室や手術室で死亡しNICUまたはハイリスク新生児を収容するユニットに入院しなかった症例**の数を入力してください。（「死産児」は含まれません。）

一般新生児室で光線療法などを実施した症例は含まれません。

他施設との重複を避けるため、生後24時間以内に入院した症例の数のみを記入してください。（その後転院した症例も含まれます。）

出生体重		分娩室死亡	入院数	入院症例のうち 日齢0~6の死亡	入院症例のうち日 齢7~27の死亡	入院症例のうち日齢27~退 院までの死亡
500g未満	院内出生					
	院外出生					
	合計					
500g以上750g未満	院内出生					
	院外出生					
	合計					
750g以上1000g未満	院内出生					
	院外出生					
	合計					
1000g以上1500g未満	院内出生					
	院外出生					
	合計					
1500g以上2000g未満	院内出生					
	院外出生					
	合計					
2000g以上2500g未満	院内出生					
	院外出生					
	合計					
2500g以上	院内出生					
	院外出生					
	合計					

在胎週数		分娩室死亡	入院数	入院症例のうち 日齢0~6の死亡	入院症例のうち日 齢7~27の死亡	入院症例のうち日齢27~退 院までの死亡
22-24週台	院内出生					
	院外出生					
	合計					
25-27週台	院内出生					
	院外出生					
	合計					
28-30週台	院内出生					
	院外出生					
	合計					
31-33週台	院内出生					
	院外出生					
	合計					
34-36週台	院内出生					
	院外出生					
	合計					
37週以降	院内出生					
	院外出生					
	合計					

調査項目A~Cまでご回答いただきありがとうございます。

「完了」ボタンを押して、回答を終了してください。

調査項目Dは【1,000g未満の超低出生体重児もしくは在胎28週未満の超早産児の診療を行っている施設】が対象となります。

該当される場合は、日本小児科学会ホームページ（URL：https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=541）より登録用エクセルシートをダウンロードのうえ、ご記入ください。

ご記入いただきました後、日本小児科学会事務局（jps-pmed@jpeds.or.jp）まで、パスワードをつけてお送りください。

該当されない場合は、ご回答は不要です。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。